

第六十六回

祇園をどり

すえ ひろがり おうぎの そう し

末広扇草子

一扇―。古代より日本人の暮らしの中で発展を遂げ、様々な場面で用いられている伝統工芸品です。涼を得る道具として、装飾品として、また日本舞踊の小道具としても馴染みの深い扇にまつわるエピソードを各景で綴ります。

主催 祇園東歌舞会
後援 京都府・京都市・公益社団法人 京都市観光協会

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー
京都商工会議所
公益財団法人 京都伝統伎芸振興財団

演出振付	藤間 紋
振付補	藤間 涼太郎
脚本・構成	塩田 律
企 画	祇園東歌舞会
作 曲	清元 菊輔
作 曲	杵屋 勝禄
作 詞	藤舎 名生
作 詞	中村 寿鶴

〈各景〉

プロローグ

…扇面に描かれた各景をご紹介します。

第一景

扇 売 り

…京の町中で鉢合わせた二人の扇売り。それぞれの売り物である扇の絵柄を言い立てて競り合う趣向の風俗舞踊です。

第二景

扇 の 的

…歴史に名高い源平合戦、屋島の戦いにおける那須与一の物語。平家方の船上に立てられた扇を源氏的那須与一は海に駆け入り見事に射落とします。

第三景

扇 蝶

…麗らかな春の日に踊りの稽古に勤しむ娘達。扇で蝶を象り、花とともに舞う春の景色を表現いたします。

第四景

宙 に 抱 く

…自然、空間、心、具現から抽象まであらゆるものを表す扇の可能性を追求します。

第五景

玉 織 姫

…京における扇の発祥と言われる御影堂にて。扇を作るのは亡き夫平敦盛を偲ぶ玉織姫です。

第六景

投 扇 興

…お座敷遊びの投扇興に因んで。投扇興は「枕」に立てた「蝶」を扇で落とし点数を競う日本の遊びです。枕と蝶の戯れを舞妓の踊りで表現いたします。

フィナーレ

祇園東小唄